

さかうえ せんちょう
坂上 羨鳥 (1653~1730)

俳人。庄屋。宇摩郡中之庄村(現、四国中央市)出身。本名は半兵衛正閑。松山、今治、丸亀、高松など諸藩の御用金調達方を務めており、仏道信仰と商用を兼ね上坂した際、池西言水、北条 団水、椎本才磨ら上方談林派の指導を受ける。句集『簾』、『高根』、『花橘』を刊行し、その親交は談林派のみならず、貞門派、新風の蕉門にまで広がる。また、信仰心も厚く、河内国錦部郡清水村(現、大阪府河内長野市)の地藏院の蓮体和尚を尊敬し、中之庄村の持福寺をはじめ、讃岐国(現、香川県)の金刀比羅宮など、多くの寺社に寄進を続けた。

略 歴

承応2(1653)年	宇摩郡中之庄村鶴屋敷に生まれる。
延宝5(1677)年	岡西惟中編『俳諧三部抄』刊行。羨鳥の句が収められている。
延宝7(1679)年	坂上一族で中之庄に薬師如来像奉納
元禄6(1693)年	中之庄の持福寺に梵鐘及び鐘楼奉納
元禄8(1695)年	三島大明神に神門寄進
元禄9(1696)年	『簾』を編集し、刊行。羨鳥の句が収められている。 讃岐の金刀比羅宮へ灯籠奉献
元禄14(1701)年	『高根』上中下を編集し、刊行。羨鳥の句が収められている。
宝永元(1704)年	持福寺へ客殿建立
宝永2(1705)年	讃岐の金刀比羅宮へ手水鉢奉献
宝永4(1707)年	河内の蓮体和尚を招き、阿波(現、徳島県)の持明院で講義を開き、持福寺で供養の大法要を行う。
正徳3(1713)年	『花橘』上下を編集し、刊行。羨鳥の句が収められている。
享保5(1720)年	河内国錦部郡清水村の地藏院本堂、持福寺宝蔵建立
享保10(1725)年	讃岐国豊田郡大野原村(現、香川県観音寺市)の地藏院本堂建立。同寺へ曼荼羅など奉納
享保15(1730)年7月5日	78歳で永眠

〈関連図書〉

- ・景浦勉『伊予俳諧史』伊予史談会 1958年
 - ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』愛媛文化双書刊行会 1975年
 - ・伊予三島市史編纂委員会『伊予三島市史』伊予三島市 1980年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』愛媛県 1984年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P296, 131)